

日本英学史学会中国・四国支部

ニューズレター

No. 104

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

英語語彙の Etymology

松岡 博信

英語の語源という言い方は様々な源を指すと思われるが、今回は morphology に基づいた英語語彙の etymology (以下、語源) について述べたい。

私は学生時代にある英語学の教授から COD の語源標記について詳しい教えを受けた。例えば, hard は以下のように標記される。

[OE h(e)ard, = OS hard, OHG hart, ON harthr, Goth, hardus f. Gmc hardnuz f. IE kratus]

そして、これらの略号を解くと次のようになる (下線)。

[Old English h(e)ard, = Old Saxon hard, Old High German hart, Old North harthr, Gothic, hardus from Germanic hardnuz from Indo-European kratus]

また, hostility については, [f. F hostilité or f. LL hostilitas] のような標記となっており, これは, 英語がこの単語を French の hostilité あるいは Late Latin の hostilitas から採り入れたのかが定かではない場合に用いられる。いずれにしろ, COD の Abbreviation については辞書の冒頭に詳細な説明があり, 慣れれば極めて簡便に語源を捉えることができる。語源を調べる際に, OED や COD に叶う辞書はないであろう。

さて, そのように COD で語源を調べているうちに, 如何に英語がラテン語の影響を受けているかがよく分かる。これにはもちろん Norman Conquest が大きく関わっていることは間違いない。英語はフランス語からの借入語だらけと言っても過言ではない。それどころか, 古英語の board は table に, stool は chair にほとんど取って代わられており, 単語のみならず文法においても, Norman Conquest の影響で英語は多くの屈折変化を消失させて, 皮肉なことに世界で最も学習し易い外国語となった。ドイツ語やフランス語を一度でもかじったことのある人は, このことを実感しているに違いない。

さて, 英語の語彙学習における語源の活用については, 古くから採り入れられており, ここで新たに主張する必要もないが, port [f. F porter f. L portare carry] のような stem は中学生に対してもその意味を積極的に指導すれば良いと私は思っている。そうすれば, ex- [f. L ex out of] と組み合わせて export 「外に運ぶ = 輸出する」などの導入に役立つし, prefix である extra- [med. L, f. L extra outside] (med. = medieval) の意味を教えれば extraordinary などの解釈にも使えるであろう。反対に section がテキストに出てくれば, [F, or f. L sectio sect- cut] というように, sect は「切り取る」という stem で section や sector は「切り取られたもの」というイメージが学習者に浮かび, 理解と定着を促すであろう。

以上述べたように, 語彙学習に語源を活用することが極めて有効である。ただ単に訳も分からず単語帳で英語を覚えても, 試験が終わればすぐに忘却の彼方に消えてしまうのが英語学習者の実態である。私たち英語教師は, その道のプロを自負するのであれば, 学習者の英語語彙知識を少しでも持続可能なものとすべく, 基本的な語源に関する知識を身につけて学習者を指導できるようにならなければならない。

(副支部長／安田女子大学)

令和4年度 総会・第1回（通算85回）研究例会報告

令和4年度支部総会、及び第1回（通算第85回）支部研究例会をオンラインで開催しました。
参加者 15 名。

日 時：	2022 年 5 月 28 日（土） 13:00 オンライン受付開始
方 法：	オンライン会議システム Zoom による開催
参加費：	会員，非会員とも無料

支部総会（13:20～13:50）

議長として田邊祐司会員を選出し，令和3年度活動報告・会計報告・会計監査報告，令和4年度活動計画を審議しました。すべて原案通り承認されました。

令和3年度会計報告

収入の部		支出の部	
繰越金	535,440	通信費	22,438
年会費	72,000	印刷費（紀要）	55,000
紀要掲載料	6,000	事務費	440
補助金	8,000	事務用品	6,785
ゆうちょ銀行利子	2		
収入合計	621,442	支出合計	84,663
		次年度繰越金	536,779

令和4年度活動計画

○支部総会・第1回研究例会（5月28日・オンライン開催）

○『英学史論叢』第25号（通巻45号）（5月28日・発行）

巻頭言「パーマー来日100年」竹中 龍範

研究ノート「昭和戦前戦時期の旧制中学における英語教育―福岡県立中学修猷館の場合―」

安部 規子

英学史随想「内海 巖：社会科教育学の成立と幼児教育カリキュラムの作成に貢献」

五十嵐 二郎

「英学徒の非日常的暮らし」田中 正道

「パーマーの著作を探し求めて」竹中 龍範

「メトロポリタン美術館に保存された菊池武信の英文文書」安部 規子

英学史時評「研究社『英語年鑑』の休刊に憶う」竹中 龍範

○「ニューズレター」No.103（5月20日・発行）

No.104（本号・11月発行予定）

No.105（2023年1月発行予定）

○第2回研究例会（12月10日・オンライン開催予定）

第1回（通算 85 回）研究例会

開会行事（14:00～14:05） 支部長挨拶

研究発表（14:05～15:15）

「西日本の旧制中学校に勤務した外国人英語講師の日本研究」

保坂 芳男（拓殖大学）

【発表を終えて】

発表者は 20 年以上にわたり主に山口県の旧制中学校の外国人講師の研究を行ってきた。それに関しては、岩国中学校から山口中学校、さらには下関商業学校の発表をすでに例会で行っており、ひと段落ついたといった時期である。これから徐々に全国へと研究対象を広げたいがその最終的な目標は、外国人講師制度の教育史的意義を明らかにすることである。その1つとして、戦前に中学校に勤務した外国人講師がその後日本に興味を持ち、その結果、彼らのキャリア形成にどのように役立ったかを明らかにしたいと考えている。

今回の発表はまだ始めたばかりの研究であるが、発表者の戦前の外国人講師研究の方向性を参加者の皆様にお示しできたように思われる。家族で日本研究を行った Cary, 香港大学の学生との出会いから京都中学で英語を教える一方で神道研究者となった Ponsonby, Oxford 大学で日本語研究をしたのちに日本に赴任、第二神戸中学校や第五高等学校で教え、日本関係図書の収集（ポーター文庫）した Porter, YMCA の派遣で滋賀県の学校で教えた後、滋賀県で建築家、実業家として活躍した Vories, 静岡県の中学校等で教え後に仏教の研究者となった Coats, 主に大阪の中学校や高等商業学校で教え、日本文学の翻訳家として活躍した Shaw, 世界歴訪の旅の途中に日本に依り富山中や福井中で教え、その後は大英博物館で日本関係の仕事をするなどした Brownell のことを簡単に紹介させて頂いた。

参加者の皆様から多くの助言、資料情報を行って頂き、研究が一步前進したように思っている。5 月は結構忙しくこの発表準備もぎりぎりで行ったが、こういう機会を与えられて感謝している。ありがとうございました。

【参加者の感想】

◆外国人による日本研究のうち、西日本の旧制中学校に教鞭をとった人物にしばってご発表いただき、このような事例がどれほどあるのか、興味深くお聞きしました。ただ、西日本に限られたのは別に東日本を対象としたご発表を予定されているためだろうとは思いつつも、旧制中学校に勤務した外国人英語講師に限定されるのはいかなる意図によるもののでしょうか、この点をお尋ねしそびれました。来日外国人が日本研究に志した例はほかにも数多くあるはずですが、なぜ旧制中学校の外国人講師なのでしょう。また、ご発表は、この条件に合致する人物を拾い上げるにとどまっていたように思いますが、著作の有無をも含め、それぞれの研究の内容がどのようなものであったか、また、その研究成果が日本研究の全体においていかに評価されているかなども併せてお聞かせいただきたく思いました。次にご発表いただく際には、かつて京都の Ponsonby の事例をご発表いただいたときのように、それぞれの研究内容の紹介と、その研究精度に踏み込んだご発表をお聞きできればと願っております。＜Dragon＞

◆私自身はあまり人物史に焦点を当てたことがなかったため、大変興味深く拝聴しました。教材史・制度史・学校変革史など、どのようなものを研究対象にするにあたっても、それに関わる人物にも焦点を当てることが、教育史のさらなる実態解明につながるということを改めて感じました。

◆気が尽きそうな調査、出来上がると示唆に富み、ご発表から多くの感銘をうけました。

京都一中に勤務したという英国人 Richard Arthur Brabazon Ponsonby-Fane(1878-1937)の姿勢には感動しました。米国人 William Merrell Vories(1880-1964)の英語教師として英語の教え方の工夫か

ら彼の熱心さが伝わってきました。米国人 Glenn William Shaw(1886-1961)の日本語について「グレン・ショー先生は日本語が達者で、時々、日本語での会話があり、この先生の時是比较的楽だった。」(市岡中『有恒会百年史』)とあり、生徒たちが先生への親近感に満ちていたことがうかがえます。

ご発表の8人のうち3人だけふれましたが、このように判明した事実を、share できることが、また新しい芽吹きへと繋がっていく始まりになるのだと思います。ありがとうございました。＜Qts＞
◆広範な人物一人ひとりを丹念に調べておられる保坂先生の研究姿勢に感銘を覚えました。特に私の関心事としては、倉田百三『出家とその弟子』を英訳したグレン・ショー氏のことをさらに詳しく知る機会となり、大変ありがたく思います。教え子の一人・小川二郎氏は、英語のみならず、立ち居振る舞いのお手本を示した様子を回想しています。日本語も堪能であったショー氏が、授業の一コマでも日米文化の橋渡し役を担っていたことがわかる印象的なエピソードでした。＜Horse＞

聴衆参加型座談会 (15:30～16:40)

「ラジオと英語」

コーディネータ 河村 和也・馬本 勉 (県立広島大学)

【座談会を終えて】

昨年度後半に放映された NHK 連続テレビ小説「カムカム・エブリバディ」は、英語に関心を持つ私たちに多くの話題を提供してくれました。私たち自身の英語学習を振り返り、ラジオ講座を聞いていた「あの頃」を思い出させてくれたこの機会に、会員それぞれの記憶をきっかけとして、英語学習史の一つとしてラジオ英語番組を取り上げようと企画しました。

座談会を始めるにあたり、コーディネータ2名から話題提供を行いました。まず馬本が「基礎英語」、「続基礎英語」、「英語会話」といった NHK ラジオ番組の思い出を、続いて河村から「百万人の英語」「大学受験ラジオ講座」について、旺文社、日本英語教育協会、文化放送との関連を交えて語りました。その後、参加者からさまざまな「個人史」が披露され、ご自宅から秘蔵音源を聞かせてくださる方もあって、たいへん盛り上がりました。ご参加くださった皆様に感謝いたします。

【参加者の感想】

◆聴衆参加型座談会という位置づけでしたが、コーディネータのお二人による資料のご準備があったおかげもあり、活発な座談となり、大いに楽しむことができました。皆さまそれぞれにラジオ講座やレコードなどを利用して英語の勉強に励まれたことをうかがい、自分が田舎の中学校で英語を学んで、生の音声に接した機会などというのは中3のときに先生がオープンリールの大きなテープレコーダを1度だけ持ち込まれて教科書本文の一部を聴いただけだったことを思い出しました。ただ、そのような状況下にあってもなぜラジオの『基礎英語』や『続基礎英語』を聴かなかったのかと問われると答えに窮します。英語にはさほど興味がなかったのでしょうか。ことば、外国語というものには関心がありましたので、世の中、英語ができれば怖いものなしとの風潮に天の邪鬼だったのだらうと思います。

また、この座談会では、自宅からのオンライン参加のメリットと言うべきか、昔流に言うところ「メカに強い」山田先生からの情報提供により、貴重な音声資料を聴く機会にも恵まれ、何よりでした。画面を通してお見せくださった SP 盤レコードは旺文社の『英語学習レコード』だったのでしょうか。小生も『旺文社英語学習レコード+ブック 英会話ジュニア科』の第Ⅰ集、同第Ⅱ集というものを持っていますが、こちらはそれぞれ「17センチ(7インチ) EP レコード2枚入り」というセットで、ブック本文中の指示を見ると EP 盤1枚1面に SP 盤1枚両面分の音声収録されているようで、SP 盤と EP 盤とで音質が異なるものかどうか聞き比べてみたくなりました。＜Dragon＞

◆私はラジオで英語学習をほとんどしなかった(すぐに挫折してしまった)一人です。しかし、ラジオ英語の歴史は長いばかりでなく、現在にまで続いていることが個人的には注目されます。TV やイ

インターネットが普及する現在においてさえラジオ英語が存続する理由には、懐古趣味的なものにとどまらず、何かしらの理由や魅力が存在するのではないかと、そのように思いました。久しぶりにラジオのスイッチを ON にしてみよう、というような気持ちになりました。

◆座談会は参加者の体験から語られ、傾聴していて、あれこれと疑問に思っていたことに答えを得ることができ、シェアすることの意味の大切さを実感しました：

「百万人の英語」—J.B.ハリス先生「カクカクした発音」—松本亨、戦後 NHK ラジオ英会話—リンガフォン British コース—British intonation の実演—リスニング, five syllables per second—英語聞き取り極意会得へアクセス—NHK ラジオ講座づくりの裏話—『英語教育』（大修館書店）和文英訳添削裏話などなど、発表者からの体験談を共有して、疑似体験をし、感動と鼓舞を得るひとときが享受できたことに謝意を表します。＜Qts＞

◆先日、今井邦彦東京都立大学名誉教授の「ファンダメンタル音声学」を買って求めて読み始めました。大きな声を出して、舌の位置や口の開け閉めに集中しながら練習を始めましたが、うまくいきません。自分自身の声を録音して聞き直すことをしないとイケない。どうも音声学について学ぶ意欲が著しく欠けており、身につくまでの努力を怠ってきたことが悲しくなります。それでもと思い泣きながら発音練習を続けています。＜池本康彦＞

閉会行事（16:45～16:50） 副支部長挨拶

懇親会（17:30～19:00） オンラインで開催（8名参加）

【例会全般に関する感想】

◆全般について：この度も事務局の馬本先生、河村先生には大変なお世話をおかけしました。御礼申し上げます。いまだに懇親会が画面越しという形に違和感を持ちながらも、実は薬疹という薬のアレルギーで湿疹が出て数ヶ月ばかり皮膚科に通っており、その服用薬の注意書きに「酒といっしょに飲まないように」と書かれているために、今回はノンアルコール・ビールにての参加となりました。これが対面での懇親会であると、我慢ができなくなってしっかりアルコール摂取になっていたんだろうなと思うと、これもオンライン例会のメリットかと思っておるところです。＜Dragon＞

◆コロナ禍でのオンライン開催はとても手際よくスムーズであったと思います。事務局の準備に感謝です。ありがとうございました。コロナが終息し対面でみなさんとお会いできるのを楽しみにしております。＜YH＞

◆今回初めて参加させて頂きましたが、非常にアットホームで、とても雰囲気の良い例会であったと感じました。支部ということで、回数は多くないようですが、次回も是非とも参加させて頂きたく存じます。

◆ZOOM ミーティング、第一回目のときは外付けカメラがうまく機能してくれませんでした。今回はカメラを内蔵した新しい PC でしたので、うまく機能しました。ところが基本操作である「音声とビデオをオン・オフにする方法」に戸惑ったりして「ヘルプ ミー！」の連発になりました。事務局にはいろいろとお世話になり、ありがとうございました。＜Qts＞

『英學史論叢』第 26 号原稿募集

日本英学史学会中国・四国支部研究紀要『英學史論叢』第 26 号（2023 年 5 月発行予定）の投稿論文を募集します。研究論考、研究ノート、英学史随想、英学史時評、書評等、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしております。

原稿提出締切 2023 年 2 月 20 日（消印有効）

- ・投稿に際しては、次の「執筆要領」および「標準書式」に従ってください。
- ・標準書式にそったテンプレートファイルをご希望の方は、事務局までお知らせください。

『英學史論叢』執筆要領

1. 『英學史論叢』に載録するものは研究論考・研究ノートおよびその他のものとする。いずれも未発表のものに限る。
2. 研究論考・研究ノート、その他のものとも、標準書式に従った完全原稿をパソコン等を用いて作成し、プリントアウトして提出するものとする。執筆者による校正は行わない。
3. 研究論考・研究ノートは日本英学史学会中国・四国支部研究例会、日本英学史学会本部月例会および全国大会、ならびに他支部研究例会における口頭発表をまとめたものとする。これによらない投稿論文も受理することがある。いずれも正副3通を提出するものとし、正本1部には執筆者名を明記し、副本2部には執筆者名を伏せる。
4. 研究論考・研究ノートは参考文献・資料・図版等を含め、10ページ以内とする。
5. 掲載決定後の最終原稿は、修正を求められている場合はそれに対応した上で、プリントアウトしたもの及びデジタルデータを提出する。原稿は提出されたものをそのまま印刷するものとし、したがって、執筆者による校正は行わない。
6. 研究論考・研究ノートの掲載料は1編につき3,000円とする。ページ数を超過した場合は、1ページにつき1,000円の追加掲載料を負担するものとする。学生会員については、規定ページ数以内の場合は掲載料を免除する。但し、ページ数超過の場合は、超過分について1ページ当たり1,000円を負担する。
7. その他のものについては、英学史随想、英学史時評、新刊書評・紹介等とする。これについては会員の投稿 および編集委員会の執筆依頼によるものとし、いずれも原則として2ページ以内とする。なお、新刊書評・紹介は日本英学史学会中国・四国支部会員の著書ならびに中国・四国支部の活動に関わる著作を取り上げるものとする。

『英學史論叢』標準書式

1. 用紙はB5判白紙を用い、上部および下部に25mm、左右に20mm、それぞれ余白をとる。
2. 本文は、10.5ポイント文字を使用し、1行あたり38文字、1ページ38行の書式によって作成する。フォントは、和文は明朝体、欧文はCenturyを用いる。和文中の読点は「、」（全角コンマ）とし、和文・欧文を問わず、英字・数字はすべて半角文字とする。
3. 本文第1ページに論文タイトル、執筆者名を記す。論文タイトルは18～22ポイント文字を使用し、中央に置く。執筆者名は本文と同じ大きさの文字を用いて、右に寄せて記す。第1ページには、タイトル、執筆者名に続いて、30行を本文（見出しを含む）にあてる。なお、最終原稿の論文末に、右に寄せて、執筆者の所属をカッコに入れて示すこととする。

4. 本文中の見出しについては前節との間を1行アキとし、番号を付してゴシック体とする。但し、見出し中に欧文が含まれる場合にはそのフォントを **Arial** とする。
5. 注は、尾注とし、本文中に右肩数字によって注のあることを明記する。
6. 参考文献は論文末に一括して示す。

英学史情報広場

- ◇田中正道「激変する教科書」『中国新聞 Select』9月7日。
◇小泉 凡「オープンマインド」『中国新聞 Select』10月20日。

※皆様からの情報のご提供に感謝いたします。

中国・四国支部からのお知らせ

◇年会費の納入について御礼とお願い

今年度会費（一般 3,000 円、学生 2,000 円）を納入いただきありがとうございます。これからご納入の方は、次の通りお手続きくださいますよう、どうぞよろしくお願いいたします。
（振込手数料は各自でご負担くださいますようお願いいたします。）

ゆうちょ銀行「振替払込用紙」を用いる場合
（口座番号） 01360-9-43877
（加入者名称） 日本英学史学会中国・四国支部

ゆうちょ銀行へ他の金融機関から振込む場合
（店 名） 一三九（イチサンキュウ）店（139）
（口座番号） 当座 0043877
（加入者名称） 日本英学史学会中国・四国支部

◇2023 年度の研究例会（日程は予定）発表者を募集します。事務局までお申し込みください。

第1回 2023 年 5 月 27 日（第4土曜日） 申込期間 2023 年 2 月 27 日～3 月 27 日

第2回 2023 年 12 月 9 日（第2土曜日） 申込期間 2023 年 9 月 9 日～10 月 9 日

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.104 2022 年 11 月 30 日発行

発 行 日本英学史学会中国・四国支部（代表 竹中 龍範）

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 県立広島大学 馬本研究室内

電話: 0824-74-1725（研究室直通）

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

日本英学史学会 中国・四国支部

令和4年度 第2回（通算86回）研究例会のご案内

令和4年度第2回（通算第86回）支部研究例会をオンライン形式で開催します。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。皆様ふるってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

日 時： 2022年12月10日（土） 13:00 受付開始
方 法： オンライン会議システム Zoom による開催
参加費： 会員，非会員とも無料

開会行事（14:00～14:05） 支部長挨拶

研究発表(1)（14:05～15:15）

「明治期英語教科書独習書に見る『再読』：森修一の独案内を中心に」

馬本 勉（県立広島大学）

【概要】明治期に用いられた英語教科書の参考書として、「独案内」や「直訳」といった独習書が多数出版された。これらは当時の訳読法を知るヒントを与えてくれるが、その一つに、漢文の「再読」に相当する方法が用いられていたことが知られている。例えば、各英単語に訳語を付す「独案内」では、使役動詞の **make** に「シテ | シムル」、接続詞の **if** に「モシモ | ナラバ」のように2つの訳語を与え、それぞれに異なる訳順数字を添えている。本研究では、広島県庄原出身の森修一が残した「ニューナショナル読本独案内」の記述内容を分析し、明治期の再読の様子を明らかにしていきたい。

研究発表(2)（15:30～16:40）

「英語語彙の多面的学習」

松岡 博信（安田女子大学）

【概要】語彙は多面的、言い換えれば立体的に学習すべきというのが私の持論である。語彙学習を促進する方策は多々あろうが、どれか一つに固執するのではなく、様々な方法で学習する方が定着率が高いことは言うまでもない。これは語学以外においても体験的な学習の方が持続性が高いのと同じである。本発表では、語源・同意語・反意語・品詞転換・連語・句動詞・外来語および品詞分析を活用した語彙指導の歴史的事例を取り上げるとともに、中等・高等教育の教室で学ぶ日本人英語学習者の語彙習得が、何故 **Vocabulary** を増やすことも、その記憶を長年に渡って維持することができないのかについて、その原因と解決策を論じ、より良い英語語彙指導に向けた方策を論じたい。

閉会行事（16:45～16:50） 副支部長挨拶

懇 親 会（17:30～19:00）オンラインで開催（参加自由。飲み物や食事は各自準備）

オンライン研究例会の参加申し込みについて

例会前日までに電子メールでお申込みください（アドレス eigaku.chushi@gmail.com）。
お申込みの方には、参加用の URL（Zoom 接続用アドレス）をお送りします。